

下総国府周遊マップ

古代律令の時代、現在の国府台・国分を中心とするエリアには下総国の国府が置かれていました。関連史跡や文化財を巡る、周遊散歩に出かけてみませんか。

8 市立市川考古博物館 市立市川歴史博物館

堀之内2-26-1(考古博物館) 堀之内2-27-1(歴史博物館)
考古博物館は1972(昭和47)年に開館し、市内で出土した25,000年前からの豊富な考古資料を保管研究、展示しています。下総国府・国分寺のことは、考古博物館第5室で展示しています。また、歴史博物館は1982(昭和57)年に開館し、中世以降の市川の歴史や民俗資料を保管研究、展示しています。

7 下総総社跡

市川市1-6-4(市川市スポーツセンター敷地内)
総社は国府に置かれた神社で、国内の神々を集めて祀っていました。下総国では六所神社と呼ばれ、1886(明治19)年までこの地に置かれました。総社は11世紀に成立したとされますが、発掘調査の結果、神社は10世紀前半に成立していました。境内のかつての地名が府中だったため、周辺に国府の中心となる国庁が推定されるようになりました。

6 下総国分尼寺跡

国分4-17-1ほか(下総国分尼寺跡公園)
国分尼寺は僧寺にやや遅れて造営されました。尼寺には塔がなく、金堂と講堂の跡が確認され、現在国分尼寺跡公園として保存されています。金堂や講堂を囲む塀や溝、塀にとりつく南門も確認されています。古代の範囲は公園を中心に最大で南北330m、東西324mにおよび、僧寺にひけをとらない広がりをもっていました。

5 下総国分寺・北下遺跡 (下総国分寺跡附北下瓦窯跡)

741(天平13)年、聖武天皇の命令で、国ごとに国分僧寺と尼寺が建てられました。史跡の名称の下総国分寺は僧寺のことです。二つの寺は隣接し、国の役所(国衙)や葛飾郡の役所(郡衙)がおかれた国府台とは谷を隔てるだけの、近い場所にありました。僧寺東側の台地斜面では、寺や役所の瓦を焼いた「北下瓦窯跡」が発見されています。

北下瓦窯跡

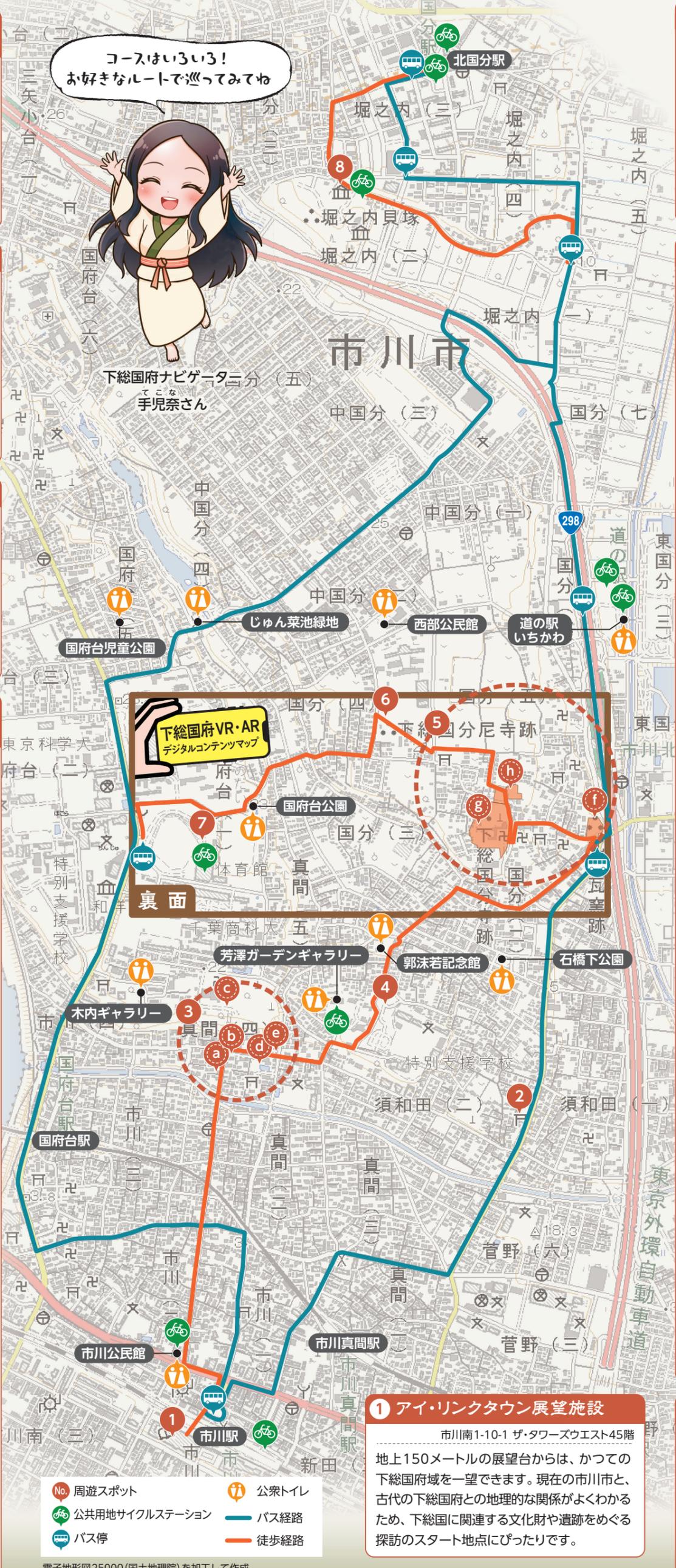
国分5-21ほか
2004(平成16)年の東京外かく環状道路建設に伴う発掘調査で、登窯と平窯の2つの瓦窯跡が発見されました。瓦窯は国分寺創建のためにつくられ、焼かれた瓦は国府の中心となる国庁や弘法寺の前身である真間廃寺にも供給されました。異なる構造の窯が操業していたことから、多様な工人が瓦づくりに参加していたことがわかります。

8 下総国分寺

国分3-20-1
下総国分僧寺の中心は現在の国分寺とほぼ同じ場所にあり、本尊を安置した金堂、僧が経の講義を受けた講堂、高さ約60mに推定される七重塔の跡が確認されました。古代の範囲は、現国分寺を中心に最大で南北336m、東西360mにおよび、そのなかには大衆院、講院、造寺所など寺の運営に関わるさまざまな施設が確認されています。

大衆院・僧坊跡

国分5-3、5-6ほか
現国分寺の北側では、寺の運営に関わるさまざまな施設が確認されています。この地点では、僧たちの住まいである僧坊、寺の事務所であり、僧の食事をつくった大衆院の跡が確認されています。さらに、この地点の北では高位の僧である講師の住まい兼事務所であった講院、北西では寺の修繕をおこなった造寺所の跡が確認されています。



4 須和田遺跡

須和田2-34(須和田公園)
須和田の台地に広がる、縄文時代から鎌倉時代に至る遺跡です。市川市では最古(紀元前2世紀)の弥生土器が最初に出土しています。国府の中心となる国府台遺跡とともに6世紀後半から建物が増え、国府内に関わる人びとが暮らしていました。国府台に続くところは、かつての土取りで発掘調査をすることなく、なくなっていました。

3 「真間の手児奈」伝承地

手児奈は万葉集に詠まれた伝説の美女で、下総国府を訪れた都びとも慕われた存在でした。真間には、手児奈の伝承を伝える石碑や寺院が現在も多く残っています。

a 真間万葉頭彰碑(継橋)

真間4-7-23 継橋通り
万葉集に残る「足の音せず行かむ駒もが葛飾の真間の継橋やまず通わむ」(東歌)を顕彰する石碑。女性のもとにひそかに通う男性の心情が詠まれています。「真間の継橋」とは、かつてこの地域が真間の入江の開口部であったころ、開口部にかけられた、板をついでつくられた橋のことです。

b 真間万葉頭彰碑(真間娘子墓)

真間4-6-11 弘法寺・手児奈霊神堂入口
万葉集に残る「われも見つ人にも告げむ葛飾の真間の手児奈が奥津城処」(山部赤人)を顕彰する石碑。「奥津城」とは墓のことで、山部赤人がみた墓は古墳だったと思われます。発掘調査で弘法寺の西側に古墳群があったことがわかり、有力な推定地になっています。

c 弘法寺

真間4-9-1
寺のいい伝えでは737(天平9)年に行基菩薩が建立したとされますが、発掘調査の結果、葛飾郡の役所(郡衙)に隣接して建立された寺(真間廃寺)である可能性が高まりました。江戸時代には紅葉の名所として知られ、多くの文人墨客が訪れました。紀行文や詩歌、絵画などに「真間の紅葉狩り」に関する記載が残っています。

d 手児奈霊神堂

真間4-5-21
1501(文亀元)年、弘法寺の七世日与上人が、手児奈の「奥津城」(墓)といわれていたこの地に建立したと伝えられます。手児奈をまつり、良縁・子宝・子育ての神として信仰を集めています。

e 真間万葉頭彰碑(真間井)

真間4-4-9 亀井院門前
万葉集に残る「勝鹿(葛飾)の真間の井見れば立ち平し水汲ましけむ手児奈し思ほゆ」(高橋虫麻呂)を顕彰する石碑。台地では水が得られなかったため、女性が台地の下へわき水を汲みにいく情景が詠まれています。亀井院には井桁が復元されていますが、江戸時代の絵図には亀井院の付近でわき水が溜まっている様子が描かれています。

2 六所神社

須和田2-22-7
はじめ下総国の総社として国府台(市川市スポーツセンター)に祀られていた神社ですが、国府台が陸軍用地となったため、1886(明治19)年に南東へ1.2km離れた現在地に遷されました。国府台にあった時から、須和田の住民が神官を勤め、その記録は14世紀までたどれます。

1 アイ・リンクタウン展望施設

市川南1-10-1 ザ・タワーズウエスト45階
地上150メートルの展望台からは、かつての下総国府域を一望できます。現在の市川市と、古代の下総国府との地理的な関係がよくわかるため、下総国に関連する文化財や遺跡をめぐる探訪のスタート地点にぴったりです。

- No. 周遊スポット
- 公共用地サイクルステーション
- バス停
- 公衆トイレ
- バス経路
- 徒歩経路

電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成

